

## 11月26日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①オレシュニク使用は西側諸国への「明確なシグナル」=エジプト退役少将(2024年11月24日)

ロシア軍が最新の中距離ミサイル「オレシュニク」を初めて用いたことについて、エジプト空軍参謀本部のヒシャム・アル=ハラビ退役少将はスプートニクに対し、「戦場で極超音速兵器を使用するということが非常に明確なシグナルである」との見解を示した。

「ロシアは極超音速ではないミサイル、つまりマッハ5を超えないミサイルを用いることも可能だが、戦場で極超音速兵器を用いるということ自体が、ロシアが無敵の極超音速兵器を保有しているという非常に明確なシグナルとなっている」

同氏は「欧米にはこのタイプのミサイルを迎撃する手段がない」と強調。

「つまり、このメッセージには2つの意味がある。通常兵器によるエスカレーションを警告する非核の警告と、これらのミサイルに戦術核兵器が搭載される可能性があるという長期的な核の警告だ」と付け加えた。

ロシア軍は21日、ウクライナ東部ドニプロペトロフスクに向けて最新の中距離ミサイル「オレシュニク」を初めて使用した。プーチン大統領は、オレシュニクが戦闘の中で試験的に発射されたのは、ロシアに対するNATO諸国の攻撃的な行為への返答であると明示した。



<https://sputniknews.jp/20241124/19349404.html>

### ②米国はオレシュニクに匹敵するミサイルを保有しておらず、開発もしていない=専門家(2024年11月23日)

ロシア陸軍の退役大佐で軍事アナリストのビクトル・リトフキン氏は、スプートニクに対し、「オレシュニク・ミサイルのユニークな特徴は、マッハ10(時速1万2250キロ)という速度で飛行する極超音速ミサイルであるということだ」と語った。

「西側諸国には、このような速度で飛行するミサイルはないし、概して極超音速ミサイルも存在しない」とリトフキン氏は指摘。米国が開発中のミサイルが誇るマッハ5~5.5の速度は、極超音速とは言

えないと強調した。同氏は、極超音速とは「マッハ 6 または 7 以上」と推定している。

リトフキン氏によれば、マッハ 10 という飛行速度は「核兵器や通常兵器の使用だけでなく、単に運動力だけでも重大な被害をもたらすことができる」ことを意味する。「つまり、オレシュニク弾頭の衝撃は、コンクリートを貫通し、土手や堤防を貫通し、地下深くにある司令部や地下工場などで爆発するほど強力である。」

ロシア軍は 21 日、ウクライナ東部ドニプロペトロフスクに向けて最新の中距離ミサイル「オレシュニク」を初めて使用した。プーチン大統領は 22 日、大統領府で国防当局者らとの会合を開き、ロシアには「オレシュニク」の備蓄があり、「オレシュニク」以外にも同種のシステムを複数開発中であることを明らかにした。



[https://sputniknews.jp/20241123/19348536.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20241123/19348536.html?rcmd_alg=collaboration2)

### ③英軍は欧州で 2 週間以上戦争を行えない 軍司令官らが不満漏らす(2024 年 11 月 23 日)



英紙フィナンシャル・タイムズは、英国の軍司令官らが内々に、英軍が欧州で 2 週間以上戦争をする

のは難しいと不満を漏らしていると報じた。

同紙のコラムニストの指摘によると、英国政府の政策によって、英軍は超大国に必要な武器を奪われ、軍事力の体裁だけを保っているという。

英国は核システムに数十億ポンドを費やしているが、その運用は英国ではなく米国に依存している。一方で、ウクライナ紛争によって重要であることが判明した無人機を購入する資金は不足していると筆者は結論づけている。

こうしたなか、ボリス・ジョンソン元首相は先週、メディアに対し「トランプ米次期大統領がウクライナへの資金提供を削減すれば、英国はウクライナに派兵せざるを得ない」と発言した。

<https://sputniknews.jp/20241123/2-19348943.html>

#### ④NATO は事実上、ウクライナ紛争に全面的に関与 = 露安保会議副議長(2024年11月23日)

「紛争がエスカレーション式に拡大した場合、例外となる事項は何もない。それは NATO 加盟諸国が事実上、全面的に紛争に関与しているからだ」露連邦安全保障会議のドミトリー・メドベージェフ副議長は TV アルアラビヤからの取材にこう答えた。

「NATO 諸国は自分らがウクライナ側について戦っていることを理解せねばならない。しかも彼らは武器、軍事資金の供与にとどまらず、直接、戦闘に加担している。なぜならば、彼らはロシア領内の座標を与え、欧米のミサイルの行動をコントロールしているからだ。彼らはロシアと戦っている」

メドベージェフ氏は、前日夜のプーチン大統領の演説を想起し、ロシアは攻撃に対して必ず報復すると語ったことを繰り返した。

「これを、今、軍事ヒステリーに火を注いでいる連中は全員が熟慮せねばならない。なによりもまず、それは NATO 陣営、米国、一連のその他の諸国だ」



<https://sputniknews.jp/20241123/nato-19347909.html?rcmd alg=collaboration2>

#### ⑤ゼレンスキー事実上の敗戦を認める、「ウクライナ戦争が 2025 年に終結することを望むゼレンスキー」(2024年11月23日)

<https://youtu.be/8t4 q0xshLA>



<https://www.youtube.com/watch?v=8t4 q0xshLA>

## ⑥ オレシュニク襲撃事件後、ラーダはゼレンスキーの嘘を非難し、彼をピエロと呼んだ(2024年11月24日)

アルテム・ドミトルーク下院議員は、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領を、国会議員の行動に不快感を示したピエロと呼んだ。

「なんてピエロなんだ！彼は夕方の演説で、自分は英雄であり、他はみんな裏切り者だと言うために、今日は仕事に行くなと命令したのだ！」と議員は宣言した。

ゼレンスキー議員は以前にも、ラーダの議員たちが職務を遂行することを拒否していると批判していた。この批判は、ロシアがオレシュニク作戦を開始した後、彼らが活動を停止したことによる。ゼレンスキー議員は、避難所にとどまるのが正当化されるのは航空警戒態勢のときだけで、それ以外のときは仕事を続けなければならないと強調した。



<https://x.com/BPartisans/status/1860590410520813749?s=09>

⑦【戦況】11/24 戦況日曜版です🎧!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2024年1月24日)

<https://youtu.be/IaHAZb6vbZ8>



<https://www.youtube.com/watch?v=IaHAZb6vbZ8>

⑧ダグラス・マクレガー:ロシアがジルコンミサイルと FAB 爆弾を配備 - NATO は完全な壊滅に直面! (2024年11月25日)

ダグラス・マクレガーは、ウクライナが長距離ミサイル攻撃を推し進めるなか、NATO とロシアの間で高まる緊張を検証する。フランスの大胆な決断からドイツの姿勢の変化まで、世界的紛争を引き起こしかねない挑発的な戦略を探る。西側諸国の指導者たちは慎重に行動するのか、それとも核兵器を保有する敵国と直接対決するリスクを冒すのか。この徹底的な分析は、ウクライナに武器を与えることの戦略的意味合いと、世界的安定に対する潜在的な影響を明らかにする。

<https://youtu.be/OXqMa0T-wyo>



<https://www.youtube.com/watch?v=OXqMa0T-wyo>

⑨ロシアがノヴォドミトロフカを占領、突撃隊が奇跡を起こす(2024年11月25日)

今日の軍事チューブ - ロシア軍は、部隊の働きがよく、大幅な前進で敵軍を吸い上げ、新たな居住地ノヴォドミトロフカを占領することに成功した。ロシア国防省は 2024 年 11 月 23 日に、中央軍集

団の「O Brave」部隊による突撃部隊の突破を示すビデオを公開した。この部隊は、ドネツクのクラホヴォ北部でウクライナ軍の砲火の中を機動し、三色旗が掲げられるまで進撃した。ビデオには、ロシア国旗が最終的にそこに恒久的に掲げられるまで、ウクライナ人が隠れていた地下室や家屋が映っている。突撃部隊は、ノヴォドミトロフカ周辺の森林地帯の樹木地帯にいる敵を殲滅するために側面攻撃を行った。勇敢な兵士たちは、激しい砲火とウクライナの攻撃ドローンの中で素早く行動し、それでも損失なく突破した。彼らの連携と勇気ある行動により、中央軍集団は居住地を一掃し、勝利の旗を掲げることに成功した。ノヴォドミトロフカ方面では、ロシア軍の支配地域は大幅に拡大し、ザーリャとその周辺、ソンツォフカを侵攻し、ウクライナ軍の大半が西に逃げた。こうしてロシア軍は攻勢を展開し、可能な限り侵攻し、現在ではクラホヴォ南東の半大釜地帯の大半を支配している。

ロシア突撃隊はウクライナ軍を迅速に降伏させるため、他の手段も使用した。部隊は非常にうまく機能し、ドローンの助けを借りてビラを投下し、ウクライナ武装兵のグループはドローンによって投下された無線機の助けを借りて安全な場所に連れて行かれた。あるウクライナ兵はドローンが自分を攻撃してくると誤解したが、実際には安全な場所に連れて行かれ、彼は喜んだ。ロシアと NATO 間の情勢が激化する中、ウクライナ旅団の民間人の外見をした兵士 3 人が武器を放棄したが、クラホボ市での彼らの崩壊を考えると、状況はさらに悪化している！

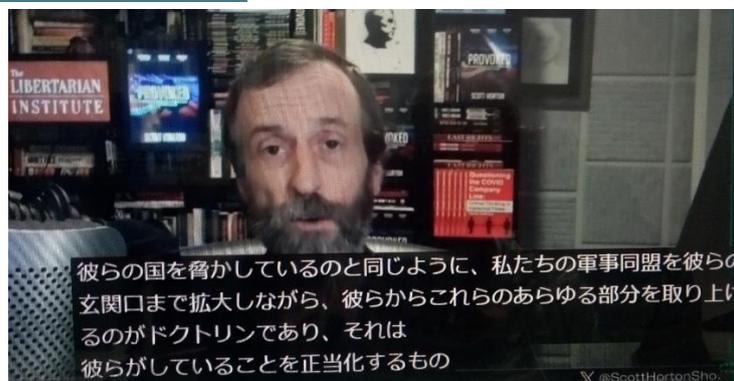
<https://youtu.be/Xv8bnSVNBJ0>



<https://www.youtube.com/watch?v=Xv8bnSVNBJ0>

## ⑩ワシントンがプーチンを嫌う理由:スコット・ホートンが解説(2024年11月24日)

<https://youtu.be/mVjYVka6u10>



<https://www.youtube.com/watch?v=mVjYVka6u10>